



# GIRLS, BE AMBITIOUS!

2020. 4.27

Vol.5

## ～SGH 探究活動報告集～

5年間の集大成  
Contents!

- ・受け継がれた防災・減災に関する取り組み
  - ・卒業生とつながる海外(台湾)探究活動
  - ・東北のSGH校等と大学との高大連携
  - ・探究活動で子供たちに育まれる資質・能力とは
  - ・高まる英語力、海外大学オンライン講座への挑戦
- ……お見逃しなく!

SPECIAL  
MENU

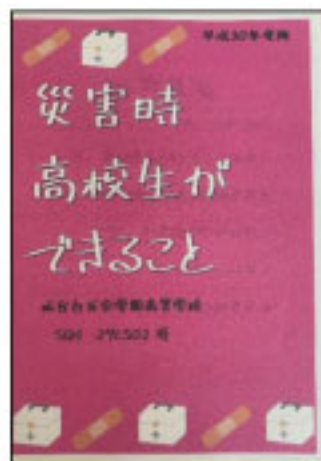
## Specials!

- 01 仙台市防災功労表彰・第一号!
- 03 海外研修(台湾)における探究活動と学びを紹介!
- 05 幻の…『第4回 東北地区SGH校等によるSDGs課題研究発表フォーラム in 杜の都』  
☆口頭発表&ポスター発表 全57テーマ一覧
- 07 本校の探究顧問 藤井千春先生講演会 開催!  
『SDGsの学び～子どもたちに育まれる資質・能力～』
- 08 速報! 消費者庁HPに堂々掲載…  
☆食品ロス班の開発パンフレット&活動報告
- 11 東北地区の『SGH甲子園』出場常連校は…本校です!
- 17 GSLとの出会い…今年は…この方で一す!
- 19 高まる英語力、海外大学オンライン講座への挑戦!
- 22 GSLプロジェクト～50人一挙公開～



2020.1.16 仙台市防災功労表彰式





その後、SGH 三回生で『震災による被災者の支援』をテーマに活動を行っていた 29LS02 班が宮城大学看護学群の佐々木久美子教授のアドバイスを得ながら開発したのが『災害時 高校生ができること』と題した高校生用の防災・減災パンフレットである。仙台防災未来フォーラム等での活動報告やブース展示の際は、先輩たちと共に減災・防災への取り組みをアピール。ぼうさい国体では吉野復興大臣や郡仙台市長らに直接パンフレットを手渡ししている。また、パンフレットの開発過程においては、実際に救命救急の講習会に参加するなど、実践を積んだ上で高校生の機動力を活かせる内容構成にしており、多くの高校生に手に取ってもらいたい一冊となっている。この班は後輩たちへ探究の引継ぎを以下のように希望している。



- ・防災・減災に関するパンフレットの内容を QR コードで読み込み可能にする
- ・スマートフォンでパンフレットを活用できるアプリケーションを開発する
- ・災害時に一番効果的と思える活用方法を考案する

先輩たちが外国人向けに開発したパンフレットは、実際に災害時に役立つことや、今でも多くの施設からの問い合わせとパンフレットの送付依頼があることを知り、社会で必要とされる活動を高校時代に自分たちの手で作り上げられることに、とても感動しています。私たちは、災害時に高校生でもできる行動をまとめたパンフレットを開発しましたが、各種フォーラムやイベントで想像を超えるほどの反響があることを知った時は、SGH の活動を継続してきて本当に良かったと思うと同時に、この取り組みを任されているのだ、という責任も感じました。開発して終了ではない、防災・減災への意識の部分の継続も継承しながら活動を行いたいと思います。(SGH 三回生 MO)

更に、SGH 四回生で『地震発生後の対応～後世に伝える～』をテーマに活動した班が作成したのが『小学校低学年以下対象の防災・減災絵本 ちいさなゆめのものがたり』である。この絵本は、親や他者による子供たちへの読み聞かせを念頭に作られており、災害時を想定した場面展開の中で、学ぶべき防災・減災のポイントや説明等も記載されている。親子で読み進めながら楽しく学べる手法は、仙台白百合女子大学の牛渡淳教授によるアドバイスや、東日本大震災時に小学校 2 年生であった班員の思いが活かされている。FM せんだいや FM 放送 RADIO3、



2020年(令和2年)2月9日(日曜日)

頭を守る ■ 走らない ■ 川に近づかない

## 地震防災 絵本で学ぶ

**幼児向け教材 震災体験伝える**

仙台白百合女子大学 4人が制作

仙台白百合女子大学 4人が制作した防災・減災絵本『ちいさなゆめのものがたり』が、仙台市立図書館で展示されている。この絵本は、震災発生時の対応や防災・減災のポイントを、子どもたちが楽しく学べるように作られている。仙台白百合女子大学の学生たちが制作したという。仙台市立図書館で展示されている。この絵本は、震災発生時の対応や防災・減災のポイントを、子どもたちが楽しく学べるように作られている。仙台白百合女子大学の学生たちが制作したという。

2020年2月11日(火) TBC 東北放送『ウオッチン! みやぎ』で、この絵本開発の経緯や防災・減災に関する活動が伝えられた。これらのメディアによる発信等から更に、宮城県立図書館からの読み聞かせや絵本の展示に関する依頼、読売新聞からの取材等が現在入っている。

現在の状況: SGH 事業指定 5 年間の間で開発されたこれらのパンフレットは、現在も各種商業施設や公共施設等に届けられており、ご活用いただいた方々が SNS 等でこの取り組みを発信しており、広く共感の輪が育まれている。(パンフレットに関するお問い合わせは本学園までご連絡ください。)



## 海外研修(台湾)における探究活動と学びの様子を大公開!

いくつか  
ご紹介します!

担当者へ  
突撃リポート♪

Q.なぜ台湾なの?  
A.アジアの教育国の一つである台湾は、日本が直面している課題について、何らかの解決の糸口を持っていることが多いからです

Q.良かった点は?  
A.日本並みに安全で親日を感じました。時差も1時間で食事が美味しい!何より卒業生が後輩たちの探究を手伝ってくれるんです。

Q.卒業生が台湾に?  
A.2012年から毎年台湾の大学に進学しています。各探究班は中国語・英語・日本語を操る先輩と共に充実した探究活動を展開します!

Q.研修のハイライトは?  
A.最終日の探究発表大会ですね!学長や教授陣、先輩たちの前で各班およそ15分、英語による成果発表です。質疑応答も英語です

台湾・・・  
いいかも(\*'▽')/

Activity1『世界貿易センターで3時間の個人探究』:初日に組み込むことが多い活動です。時期によってテーマは異なりますが、アジアの最先端企業の見本市が開催されています。“家電製品の最先端を調査しなさい”“旅行に欠かせないお土産品をプロデュースしなさい”などのお題が校長先生より渡されます。生徒たちは100近いブースを巡りながら一人で調査を行い、帰国後、レポートにまとめて校長先生に提出し、校長賞を競います。**学びのPOINT**⇒海外では先生からの指示待ち生徒が増えます。安全が確保されている場所で、個人活動(笑顔で身振り手振り+簡単な英会話)ができると、自信が生まれ、考えて行動するようになり、残りの日程を自ら充実したものにすることができます。同様の目的で、故宫博物院でもお宝調査を行います。おススメですよ!

Activity2『プレゼンテーションの極意』『台湾を紹介するPPTを作成』:どちらも英語の語学講座です。台湾は語学の教授法が優れており、探究活動に必要なスキルを英語で習得します。研修では中国語も学びますが、そちらも英語を介して講義を受けます。**学びのPOINT**⇒プレゼンテーションは自己の将来を開く重要なスキルのうちの一つです。友人との連携や聴衆へのアイコンタクト、効果的な声の出し方など意識を高めつつ実践を通して学び、探究発表大会で披露します。PCを自国語使用に変換しながら、個人の個性を発揮したPPTを作成する授業は大変人気です。どこの国のPCであっても自在に操れるグローバル人材を目指し、更にPPTに個人のオリジナリティーを加え、発表用資料を作ります。



Activity3『総統府見学』:台湾と日本の歴史的関係を学ぶなら先ずココへ!毎月第一日曜日が研修日に当たる年は、ほぼ全館見学できます。**学びのPOINT**⇒ボランティアで館内を案内して下さる方々の日本語(統治時代に学んだ日本語)の流暢さに驚きます。館内には統治時代の日本語の教科書も展示されています

Activity4『忠烈祠見学』:中華民国国防部の管轄下にある国民革命忠烈祠は、辛亥革命や日中戦争などで戦没した英霊を祀る祠。**学びのPOINT**⇒見所は衛兵の交代式。身長体重及び能力が問われる衛兵は、軍隊のある国に存在する憧れの職業。他国の交代式より厳粛で、動きが揃っていて威厳を感じます。必見です!



Activity5『パイナップルケーキのDIY』:台湾の国民的お菓子の一つ。館内でDIYを楽しみながら、焼き立てを試食したり、お土産を購入します。**学びのPOINT**⇒ケーキの型には『台湾の島・昔のお金・国花の梅の花』などの意味があります。真ん中の餡は、パイナップルや冬瓜などで出来ています。こねて丸めて型に詰めるだけ!

研修・・・  
こぼれ話(^\_^)-☆

Q.困ったことってある？  
A. あります！食欲旺盛なあまり、果物でアレルギー症状を起こしかけた生徒が・・・お店の方々も心配されて、アレルギー対応の薬があったのでセーフ！食べ過ぎ注意！

Q.夜市は楽しい？  
A. 楽しいですよ。日本のお祭りの夜店が所狭しと並んでいる感じです。先輩たちがリサーチ済みの美味しいものに次々出会います。とても安いので購買意欲がアップ！

Q.充実した研修ですね  
A. はい、先日熊本県の教育庁から台湾研修の内容や成果等を知りたいと連絡があり、様々お伝えしたところです。一つの Activity が終わると顔が輝く生徒が分かりますよ。

Q.訪問企業の選定は？  
A. 研修大学の紹介などです。男性の多いチェーン会社の現地工場にJKが高い興味を示したのは驚きです。質問も良かった。恐るべしJKって感じて見直しました(笑)。

JK=女子高生♡



Activity6『探究活動は班毎自在に』：仙台白百合学園の海外探究活動における一番のポイントは『通訳は先輩たち』&『班毎の探究テーマに沿ってバラバラに活動する』です。日中英の言語を操る先輩たちが各探究班をバックアップ。事前に調査していた場所や研究室などを先輩たちが道案内。更に質疑応答にも協力します。生徒にとって海外での探究活動はドキドキです。しかし、事前調査した場所や研究室での出会いと学びは、本当に大きな収穫であることに気付きます。**学びの POINT**⇒各班バラバラに探究活動できる環境は、先輩あってのこと。最近の後輩たちの探究活動も応援したくて台湾の大学を選択したり、逆に先輩たちと出会ったことで、台湾の大学に進学する生徒も増えてきました。3か国語を目の前で操る先輩の影響をかなり大きい様です。

Activity7『高校交流で探究セッション！』：台中で研修するときは暎明女子高校、台北で研修するときは振聲高校と探究セッション交流会を行います。事前に探究テーマを伝えているので、両者班ごとに分かれて意見を交換します。時には授業に参加したり、お茶会をしたり・・・互いに準備をしたプレゼント交換もあります。半日だけの短い時間ですが、お別れ時は涙が流れることも・・・同じカトリックのミッションスクールなので校風も似ており、生徒にとって安心できる時間の様です。**学びの POINT**⇒同じ高校生なのに、英語力の高さに圧倒される瞬間です。初対面でも積極的で、自分の意見をしっかり持っている台湾の生徒にどこまで頑張れるか・・・英語力の不足を知り、発言できない悔しさや恥ずかしさは次へのステップに進む大きな原動力。最後は仲良く連絡先を交換したり、手を取り合って授業に参加したりと笑顔が絶えません。日本に戻ってきてからも連絡を取り合っている様です。

Activity7『企業訪問で知るアジアの経済』：薬品工業地帯を訪問した時は、薬品を日本に輸出している企業を訪問。体験授業として虫よけスプレーを作った時は、キットを使って生薬から直に抽出するという作業を学びました。日系企業のチェーン製造業 TSUBAKI を訪問した時は、出来立て熱々のチェーンの裏に、AIによる縮小率を計算した鉄鋼のカッティングを学びました。**学びの POINT**⇒台湾製造で日本に輸出している薬品の需要と供給の経年比較や、日系企業による海外進出の課題克服からアジア経済の動向を考察する視点が養われます。鉄鋼工場『日本の技術という知的財産は守られるのですか』という質問に、本気で答えてくださった支社長さん。女子高生の鋭い質問に感銘を受けた様子でした。企業における海外進出には人材が必要。どの様なスキルとマインドを養うことが大切か、多くのことを学んだ研修でした。





## 幻の・・・第4回東北地区 SGH 校等による SDGs課題研究発表フォーラム in 杜の都！

SGH 事業指定 2 年目の平成 29 年 3 月に、仙台白百合女子大学を会場に第一回を開催。東北大学、宮城大学、仙台白百合女子大学からコメンテーター（講評教員）を招き、日本語発表、英語発表、ポスター発表を行う。生徒参加人数は毎回 130 名前後であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため急遽中止となった第 4 回(日程は以下)は、180 名近い生徒の参加申し込みがあった。

- ・日時：2020 年 3 月 7 日（土）10：00～16：00
- ・場所：仙台白百合学園中学・高等学校
- ・主催：フォーラム実行委員会
- ・共催：東北大学・仙台白百合女子大学 ・後援：宮城大学
- ・参加校： (チーム数)



県	SGH指定校及びアソシエイト校及び地域共同G型	日本語	英語	ポスター
岩手	岩手県立盛岡第一高等学校(27年度指定校)	1	1	1
	盛岡中央高等学校(アソシエイト)	1	1	
宮城	宮城県仙台二華高等学校(26年度指定校)	2	2	3
	仙台白百合学園高等学校(27年度指定校)	6		8
	宮城県気仙沼高等学校(28年度指定校)	2	2	3
秋田	秋田県立秋田南高等学校(27年度指定校)	1	2	6
山形	山形県立山形東高等学校(地域共同G型)	1	1	
	九里学園高等学校(地域共同G型)	1	1	3
福島	福島県立ふたば未来高等学校(27年度指定校)			3
		15	10	27

### ◆全 52 チームの発表テーマ

岩手県立盛岡第一高等学校	日本語	放射線の観察とその応用
	英語	Promotion of Affraction of Iwate by Iconic Sweets
	ポスター	障がい者の認知度向上
盛岡中央高等学校	日本語	食品廃棄率の低下
	英語	高齢者の雇用促進
宮城県仙台二華高等学校	日本語	塩害被害のリスクの分散として、レモンガラスを虫よけとして加工することは有効か 殉職からみる日本人の精神の変容
	英語	雨樋設置に対する市場価値を高めるには ココナッツオイルの制作・販売によるベンチエ省農民の貧困解消の実現可能性
	ポスター	学校制服における人々のジェンダー意識について 若林城の築城意図
		バイオン中学校におけるバガス製品を活用した教育向上案
宮城県気仙沼高等学校	日本語	今の日本の高等学校に制服は必要か 内側から行うまちづくりのアイデア～地域愛着がもたらす活力を利用する～
	英語	『女子力』という言葉は男女平等の妨げになるか 海洋プラスチックの現状と緩和のために私たちに求められること
		ポスター



仙台白百合学園高等学校	日本語	ロヒンギャ難民の教育支援について
		再エネ化による経済効果
		若年性うつ病と食事の関係性について～うつ病と共存していくために必要なこと～
		家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか
		食糧支援は各地に広まっているか
	ポスター	地震発生前後の対応～後世に伝える～
		若者の幸福度について
		路上生活の自立支援について(おっちゃんを教え)
		食で高齢者の健康寿命を延ばせるか
		在仙の外国人労働者が抱えている問題とその解決案
		非常食の工夫で健康をサポートできるのか
		日本の教育格差の現状と子どもの教育状況の改善
		ホームレスへの物資の提供は自立を促しているのか
		廃棄食品から飢餓と飽食にアプローチ

秋田県立秋田南高等学校	日本語	ホワイトソルガムを用いて北米の肥満問題を解決する
	英語	『うま味物質』で解決！塩分過多 Solving Excessive Salt with "Umami Substance"
		Increasing Thai Fishermen Income by Selling Tsukudani.
	ポスター	Protect Apples from Global Warming～The New Future with 流水×農業～
		Saving People from Food Poisoning
		Why don't you reduce loss of your money by GF?
		A Key of Solving Agricultural Damages by Floods
		Proposing Advanced Agriculture in Laos
		Enviromental Improvement and Raising Production of crops in Congo

山形県立山形東高等学校	日本語	世界から差別と偏見をなくすために
	英語	A solution for WORLD HUNGER

九里学園高等学校	日本語	健康寿命を延ばすために
	英語	Fair Trade Campaign in Kawanishi Town
	ポスター	食育～親子のコミュニケーション～
		How to spread the value of organic farming? For Running The Kids Shokudo(Cafe) with similes

福島県立ふたば未来学園高等学校	ポスター	高齢者を健康にする
		ヘルプマークを広めます
		Community bridge～地域×高校×献血～

◆発表形態：日本語・英語 口頭発表 15分+質疑応答 5分、ポスター発表 15分×2回

◆コメンテーター（講評教員）

東北大学	宮城大学	仙台白百合女子大学
米澤由香子 先生	Matthew WILSON 先生	宮崎正美 先生
新見有紀子 先生	佐藤 麗 先生	Steven Hatfield 先生
林 聖太 先生	Timothy J. PHELAN 先生	柴田和枝 先生
		鈴木真太郎 先生

(敬称略)





## 藤井千春先生講演会『SDGsの学び～子どもたちに育まれる資質・能力～』開催！

2020年に小学校、2021年に中学校で実施される新学習指導要領に「主体的・対話的で深い学び」の充実を目指したSDGsを中心とした探究活動を伴う学び（授業）が導入される。なぜ今探究活動が必要なのか、探究活動が児童・生徒の成長に如何に関わっているのか、将来の大学進学に必要とされる資質や能力が、探究活動によってどの様に形成されるのかを学び合うために実施。講師の藤井千春先生(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)は本校のSGH運営指導委員長であり、現在、探究活動顧問として生徒及び教職員に多くの学びと気づきを示してくださるだけでなく、探究活動における評価やアセスメントの開発にもご協力を頂いた。今後も藤井先生を招いて、年齢や成長に合わせた探究活動のテーマ設定や探究学習の手法、ファシリテーター役としての教員のスキルアップ、発表資料の作成やプレゼンテーションにおける留意点等についての講座の定期的な開催を予定している。

### 【配布資料】

協台白百合学園中学・高等学校

## SDGs 特別講演会

『SDGsの学び～子どもたちに育まれる「資質・能力」～』

講師 **藤井 千春 氏**  
(早稲田大学教授)

日時 **9月7日(土)**  
**14:00～15:30**  
(SGH 探究活動実践の発表もありです。)

会場 協台白百合学園中学・高等学校  
1F 複合図書室  
※入場無料(お申込み要)



【お申込み・お問い合わせ】  
協台白百合学園中学・高等学校 事務局  
〒105-8301 東京都港区芝浦3-1-1 協台白百合学園中学・高等学校  
TEL: 03-3463-1111 FAX: 03-3463-1112  
E-MAIL: [info@syohyaku.ac.jp](mailto:info@syohyaku.ac.jp)

### SDGsの学び～子どもたちに育まれる「資質・能力」～

藤井千春(早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

#### SDDs(持続可能な開発目標)とは

国連総会(2015年9月)で採択

持続可能な世界を創るために、世界的規模で持続的に取り組むことが必要とされる課題とその達成目標

例) 貧困、飢餓、健康、福祉、教育、環境、ジェンダー、平等、平和、…17の目標

学校教育のプログラムへの活用

- 子どもたちに主体的に取り組むことが求められている課題
- 子どもたちが調べ、体験し、考え合い、身近な生活から取り組むことが可能

### SDDs(持続可能な開発目標)とは

国連総会(2015年9月)で採択

持続可能な世界を創るために、世界的規模で持続的に取り組むことが必要とされる課題とその達成目標

例) 貧困、健康、福祉、教育、環境、ジェンダー、平等、平和、…17の目標

学校教育のプログラムへの活用

- 子どもたちに主体的に取り組むことが求められている課題
- 子どもたちが調べ、体験し、考え合い、身近な生活から取り組むことが可能

### 平成29年版の新学習指導要領

「これからの学校教育には…一人一人の児童(生徒)が、自分のよきや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、**多様な人々と協働**しながら様々な社会的変化を受け継ぎ、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。」

→「個性を生かし**多様な人々と協働**して、  
→学習活動の在り方、育むべき「資質・能力」  
「**持続可能な社会の創り手**」となる。  
→目指すべき人間像

### SDGsの学習活動の特質

- 自分たちで動いて調べる  
→情報収集、フィールドワーク、取材、体験など
- 他者と誠実に対話する  
→学級の友だち、専門家、地域の人々など
- 自分と世界がつながる  
→世界の課題と関連した自分の生活を実行するなど

成果 ・社会を動かす ・社会のために動く ・社会で生きる

### SDGsの学習活動で育つ「資質・能力」

- 構成主義的な対話力** =多様な人々と協働して問題解決のための「最善解」を探究する誠実なコミュニケーション力、リーダー性(共感力と影響力)など
- 非認知的能力** =目標の実現に向けて自分の感情をコントロールし、他者との良好な関係を形成・維持する力
- 社会関係資本** =多様な人々との互恵的なつながりを形成し、必要な状況で活用する力

### 幸せな生き方の最大公約数

現実の世界の中で多様な人々と相互に信頼・尊敬し合って互恵的につながり、「持続可能な社会の創り手」として自らの価値を実感しつつ生きること。





## 速報！ 消費者庁 HP に堂々掲載…食品ロス班の開発パンフレット&活動報告

『家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか』をテーマに探究していた 30LS04 班は、これまでの探究活動における解決策の一つとして、食品ロス削減に向けたレシピを考案。調理室などで地道に実践を繰り返し、食材を無駄なく継続的に活用でき、しかも簡単で美味しい料理の試作に挑戦。味付けや彩り、栄養価にこだわった幾つかのレシピを、探究活動の報告会や食品ロス関連の料理コンテストで発表。優秀賞や特別賞を受賞する。それらのレシピの中から選りすぐりを、一冊のパンフレット『それ、捨てるの?』としてまとめ 2020 年 2 月完成させる。このパンフレットの絵も、すべて班員がコツコツと作ったオリジナルである。同年 3 月 31 日、消費者庁 HP の食品ロスに関するページに、30LS04 班のこれまでの活動の様子と、開発したパンフレットが掲載される。



♪消費者庁 HP のアドレスは以下。開いたら食品ロスのアイコンをクリック！

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_policy/information/food\\_loss/case/pdf/case\\_200331\\_0001.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/case/pdf/case_200331_0001.pdf)

♪なんと、開発したパンフレットの全ページが掲載されていますよ♡ チェックしてね(w)/

【消費者庁 HP の掲載内容】

### 高校生の探究活動「家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか」

(仙台白百合学園高等学校 30LS04班)

食品ロス削減推進法が施行され、コンビニやレストランなどで食品ロス削減の取組が進められる中、仙台白百合学園高等学校の生徒が、食品ロスの半分は家庭から出ることを知り、家庭での食品ロスを減らす根本解決として、食品ロスを取り巻く現状を含む食品ロス削減レシピ集を作成。

- まだ食べられるのに捨てられてしまう食材を集めて、料理を作るテレビ番組を見て、食べられるのに捨てられてしまう食材が沢山あることを知り、活動開始。

- 食品ロスについて調べ、経済や環境問題と深い関わりがあること、食品ロスの約半分は家庭から出されることも知る。



(30LS04班の生徒)

- 地元の市役所には市の食品ロスの状況や取組を、大学の先生らや多くの有識者には発生する要因や減らすためのコツをヒアリングし、さらに深堀を実施。
  - 家庭での食品ロスには、
    - ・捨てられる食品の中で、野菜が多い。
    - ・調理の際、野菜の皮など食べるところまで除去してしまう「過剰除去」が多い。
 また、食品ロスを減らすことで、様々な社会問題の解決にもつながると分かった。

家庭からの食品ロスを削減することの重要性を実感。

- 2020年2月に、2年間の探究活動の集大成として、食品ロスに関心を持って、楽しく工夫して削減してほしいと、特に若い世代に向けて、食品ロスの現状を含めた食品ロス削減レシピ集を作成。

(生徒が作成した食品ロス削減レシピ集)



使い切りレシピやリメイクレシピを掲載。

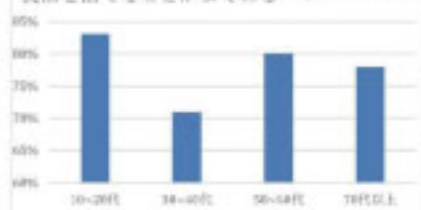
□ 活動に向けて、学園祭での食品ロスに関する調査の実施。

2018年9月、学園祭で、食品ロスの実態把握のため「家庭での食品ロス」について、約500人にアンケート調査を実施。

アンケート結果（一部）

・問い「食品を捨てることがよくある」には、10～20代が最も多い83%であった。

食品を捨てることがよくある



特に若い人たちの意識を変える必要があると実感。

・問い「どのようなときに捨ててしまうことがあるか」には、「食べきれなかった」「嫌いなものだったとき」「賞味・消費期限が切れてしまっていたとき」などが挙げられた。

【活動のまとめ（生徒の感想）】

活動を通じて、食材の大切さを改めて実感するとともに、食品ロスは解決しなければならない問題だということも再認識した。また、食品ロス問題は、一番身近に取り組める環境問題の一つ。私たちの作成したレシピ集が少しでも多くの人に受け、食品ロス問題への関心や知識を持ってもらいたい。一人一人が自分の行動を振り返り、食品ロス削減のために行動を起こせば必ず変化が得られると思う。今までの活動を通して学んできたことを私たちは伝えていくべきだと認識した。作成したレシピ集を配布して、多くの人たちの食品ロス削減の意識を向上させたい。

□ 様々な大会やイベントに参加して、食品ロス削減の重要性を広める活動の実施。

- 2019年6月、人間総合化学大学主催の「第1回ここから健康グルメ大賞」で、「食品ロス削減につながる献立」を考案して、優秀賞を受賞。食品ロス削減を広める一節となった。



献立は、以下5品。  
 ・豆腐ハンバーグ  
 ・ポテトサラダ  
 ・野菜スープ  
 ・ヨーグルトゼリー  
 ・お酢ラスク

- 2019年9月、早稲田大学藤井千春教授による講演会「SDGsの学び～子供たちに育まれる「資質・能力」～」にて、食品ロスに関する活動について英語で発表。

- 2019年10月、山形県主催の「環境にやさしい料理コンテストinやまがた」のリメイク料理部門では、メンバーの一人が、残った茹でそばを使った食品ロス削減レシピ「そばスティック」を応募、「ごみゼロくんいちおし特別賞」を受賞。



※山形県からの依頼で、料理レシピサイト「クックパッド」消費者庁のキッチンで、「そばスティック」を公開中。  
<https://cookpad.com/recipe/5960433>



- 2019年11月、全国ユース環境活動発表大会 実行委員会主催の「第5回全国ユース環境活動発表大会東北大会」で、研修内容や作成中のレシピ集などを発表し、「優秀賞」を受賞。

Voice

私たち 30LS04 班のテーマは「家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか」です。日本テレビの番組「THE! 鉄腕! DASH!」のゼロ円食堂という企画（廃棄食材を活用して美味しい料理を作る）を見たのがこのテーマに至ったきっかけでした。私たちは家庭で食品を捨てることは本当に多く、食品ロス問題は経済問題や環境問題と関りが深いことも学んできました。2019年3月の台湾研修では、探究活動の中で、廃棄される食材を使ってお菓子を作り販売している Pick food up さんの元を訪れ、実際の様子を見てきました。そうした中で、食材を使い切ることの大切さを伝え、野菜等の過剰除去を減少させるためにも、食品ロスにつながるレシピの考案が必要であると感じ、試作を重ねレシピの開発に挑戦しました。また、食品ロスの意識を高めてもらうために、開発までの流れや今後の活動の方向性、コンテストで認められたレシピの紹介など、公の場で率先して発信してきました。開発した食品ロス削減のためのレシピ集が、多くの方の目に留まっただけ、食品ロス問題に対する意識を変化させることが出来れば…と願っています。



# 家庭の意識の改善で 食品ロスは減らせるか

30LS04班 菅井梢子 池田遥香 荒木美帆  
佐倉田綺羅 小泉沙耶香

## 目的

日本の食品ロスの半分は家庭からであることを知った。  
レシピの考案や削減につながる対策などを発信して  
家庭の食品ロスを減らし、全体の食品ロスを削減する



## 食品ロスとは

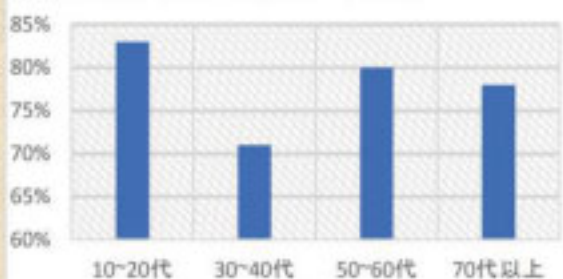
→食べられるにも関わらず捨てられている食品のこと

食品を捨てることがあるか  
年齢別アンケートを実施  
2018 9月



食品ロス問題の現状について学ぶため  
宮城大学事業構想学部板明果先生と対談  
2019 2月

## 食品を捨てることがよくある



## 家庭の食品ロスの内訳

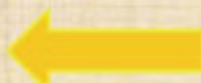
野菜>果実>魚介>肉

野菜や果物は販売単位が大きく、  
使いきれず腐らせてしまうことが要因  
食品ロスを減らすメリット

- 食品廃棄費用の削減 年間約2兆円
- ごみ問題の緩和
- 肥料や資源の無駄を減らす



食材を使い切るレシピ考案  
コンテストへ応募  
2019 5月



台湾の食品ロスについて学ぶ  
ためAnn Huangさんと対談  
2019 3月 台湾研修

早稲田医療学園人間総合科学大学主催  
第一回ここ・から健幸グルメ大賞  
家庭で食品ロスを減らすためのアイデア部門  
**優秀賞受賞**

## 食品ロス削減のためにやっていること

- ①食品ロス問題の重大さを伝える  
→FacebookやInstagramで情報発信
- ②料理を楽しむ  
→レシピを伝授



## 〈食品ロス削減につながる献立〉

- 豆腐ハンバーグ
- ポテトサラダ
- 野菜スープ
- ヨーグルトゼリー
- お麩ラスク

フルーツ缶のシロップも  
捨てずに使用



野菜は皮付きのまま使用し  
使い切る工夫をした

## レシピ考案の動機

家庭の食品ロスを減らすために普段捨てている  
部分や余ってしまう食材を使って料理を作ろう  
と考え、よく捨てることが多い野菜をメインに  
レシピを作成

## 今後の展望

- お弁当の考案、コンテストへの応募
- 簡単なレシピの考案
- 学園祭でのレシピ配布

## 参考文献

農林水産省  
[http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_los/s/161227\\_4.html](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_los/s/161227_4.html)



## 東北地区の『SGH 甲子園』出場常連校は…仙台白百合学園高等学校です！

2017年3月から関西学院大学を会場に第一回大会が開催されて以来、予選を通過し、毎年本選に出場している本校はSGH甲子園の出場常連校。予選は結構厳しいもので、300字の探究概要と1000字の探究内容を提出し、更に5分間の探究活動ダイジェスト版の動画を収録し、期日までにデータを送信する年もあるほど。本校では参加希望探究班が多いためプレゼンテーション審査を校内で行い、選抜された班が予選会に臨むというシステム。毎年本選に出場しているが、大会関係者より、『明確な探究骨子と困っている方のためにという視点形成が優れており、更に活動の幅が広く課題解決策もオリジナリティがある。何よりこの活動を多くの方に伝えたいという意欲が発表に溢れている』と評価されている。今号では、第一回大会からのアーカイブとして探究テーマやポスターを掲載する。

### ◆第一回 SGH 甲子園

日時：2017年3月19日（日）

場所：関西学院大学

◀日本語プレゼンテーション部門▶

『災害時における外国人への支援体制』班

◀ポスター発表部門▶

『高齢社会を社会福祉の視点から考える』班



### ◆第二回 SGH 甲子園

日時：2018年3月24日（土）

場所：関西学院大学

◀ポスター発表部門▶

『再生可能エネルギー～エコモデル計画から普及へ』



### ◆第三回 SGH 甲子園

日時：2019年3月23日（土）

場所：関西学院大学

◀ポスター発表部門▶

『アジア諸国との国際関係』班

### ◆WWL・SGH 甲子園

日時：2020年3月21日（土）

場所：関西学院大学

◀日本語プレゼンテーション部門▶

『ロヒンギャ難民の教育支援について』班

◀ポスター発表部門▶

『家庭の意識の改善で食品ロスは減らせるか』班

（この班のポスターは前頁に掲載）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止



WWL・SGH 甲子園 本選出場内定証明書

## テーマ

災害時に役立つパンフレット届けます!!  
減災パンフレットついに完成

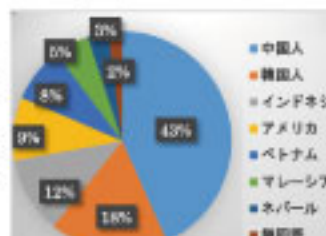


# 災害時における外国人への援助体制

LS2702 班 佐々木 沙菜、佐藤 聖美、大畑 結、藤耳 優佳里

## 探究動機

3月11日、東日本大震災が私たちの住む東北地方を襲いました。県内でも多くの方が震災の犠牲となりました。その中には、我々日本人だけでなく7か国以上の外国人の方もいました。そこで私たちは次に東日本大震災のような大規模災害が発生したときに一人でも多くの命を救いたいという気持ちから探究をスタートさせました。また災害時に外国人の方に役立つパンフレットの作成も始めました。



## 活動スケジュール

- 平成27年  
4月 論議設定(キーワード・テーマ設定)→探究活動開始  
5月 資料集め  
平成28年  
1月 東北大学今村文彦教授を訪問  
2月 東北大学佐々木教授を訪問 国際センターで資料収集  
3月 台湾研修  
4月 中間報告会  
5月 熊本地震への募金活動  
8月 第一回防災体験会でのプレゼンテーション  
被災高校生へのアンケート

### 東北大学 今村教授・佐々木助教

災害国際研究所長 今村文彦教授  
東日本大震災を踏まえて、災害時の多くの課題点、具体的な活動方法などを教えて頂きました。

災害科学国際研究所 佐々木助教  
災害時看護や避難所支援などについてアドバイスをいただいています。

### 国際センター

国際センターでは外国人の方が震災直時のようなことになったのかなどの資料を調査しました。



### 防災訓練

2016年10月30日、東北大学評定河原グラウンドにて行われた防災訓練に参加し、実際に震災が起きた時にすべき行動などを再確認しました。また、防災訓練終了後には、参加した外国人の方に意識調査を実施しました。

### 調査探究 in 台湾



藤教授および東海大学の学生や精明女子高級中学の生徒の皆さんとのディスカッションを通し、『日本の災害に対する意識の低さ』に改めて気づきました。

### 現役高校生アンケート

私たちは減災パンフレットの内容をよりよくなるべく、実際に東日本大震災を経験した高校生(当時小学生)にアンケートをおこないました。避難ルートの記述スペースや避難時の持ち物リストなど実際の経験に基づくアドバイスを取り入れたことで、次世代を担っていく高校生らしい内容となりました。

### 地球フェスタ

2016年10月10日に国際センターで行われた地球フェスタの『災害時の外国人への言語配慮』についての講座に参加しました。災害時において、日本人は難しい表現を使いがらで、日本語初級者の外国人は理解し難くストレスの多い環境に置かれてしまう、という事実を外国人の方々との交流を通して学びました。

Look before you leap  
(減災パンフレット)

9月 第二回防災体験会への参加 外国人への意識調査  
10月 防災訓練への参加



11月 "GLOBAL TALK"(FM sendai ラジオ)出演  
12月 第三回防災体験会でのプレゼンテーション 防災環境都市・仙台ニューズレター「えーる」の取材  
1月 外国人への意識調査・減災パンフレットの使い心地調査

### パンフレット内容①



1つ目のこだわりは、避難所までのルートなどを書き込める記述スペースです。これは、実際に震災を経験した現役の高校生に行ったアンケートの意見から取り入れたものです。『避難ルート』や『自分の避難場所』などを『書き込む』ことの出来る、この記述スペースを設け、事前に記入しておくことで災害時、避難ルートに迷うことなく避難所に辿り着くことが出来ることを期待しています。

### パンフレット内容②



2つ目のこだわりは『やさしい日本語』についてのページです。やさしい日本語とは、『関連用語や難しい言い回しを、簡単に言い換えた日本語』です。例文を外国人から日本人へ示して貰うことで、やさしい日本語の理解による意思疎通の機会を増やし、日本語に不慣れな外国人への言語配慮を促すことを目的としています。

### これから

パンフレット完成後は、仙台国際センターや空港、観光案内所、地域のコミュニティセンターや病院等に置かせていただき、外国人の方が災害時に取れるような形にしようと考えています。また、今後の活動としては、神戸で開催されるSGH甲子園などに参加し、今までの成果を発表します。しかし、発表することが終わりではありません。私たちはこれまで、今の社会に必要なと思った活動を実施し、課題を解決しようとしていることを、ラジオや市民講座などで発信してきましたが、私たちの探究を通して定めた本日の目的は、ただパンフレットを作ったと認めるのではなく、パンフレットの作成を通して「防災・減災意識の向上」なのです。グローバル化が進む時代では、他者、特に日本の自然災害の知識が欠け、言葉の壁を持つ外国人の方々にも、もっと目も心も向ける必要があると私たちは考えています。そのため、今までの経験から、いつ起こるかわからない自然災害への恐怖を減らしていくことは可能である。それを外国人にも日本人にも伝えていくためにこれからも活動していきます。



# 再生可能エネルギー ～エコモデル計画から普及へ～

仙台白百合学園高等学校 28LS04班

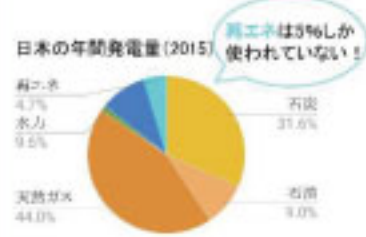
松永 莉紗 \* 田崎 円 \* 伊東 桃子 \* 大村 真珠 \* 井上 奈奈美

## テーマ 再生可能エネルギー

### 再生可能エネルギー(再エネ)

- 太陽光発電
  - 風力発電
  - 地熱発電
  - バイオマス発電
  - ごみ発電
  - 水力発電 など
- 自然のエネルギーを利用  
一安全でクリーン、資源が枯渇しない!

種類	メリット	デメリット
太陽光	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模でも発電可</li> <li>設置が簡単</li> <li>屋根材の劣化を防ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光の量に発電量が左右される</li> <li>メンテナンスが必要</li> </ul>
風力	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー量が多い</li> <li>大規模だとコストが特に良い</li> <li>一日中発電できる</li> <li>市民発電の例もある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>風力に発電量が左右される</li> <li>台風・強風の時は止める</li> <li>バードストライク</li> <li>騒音</li> </ul>
バイオマス	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみや森林を活用できる</li> <li>地域に合わせて資源を変えられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源の確保が困難</li> <li>廃却のエネルギーが低く、効率が悪い</li> </ul>



**地球温暖化**  
温室効果ガス排出量は近年30年で急上昇  
火力発電による二酸化炭素排出  
地球温暖化が深刻化すると、海面上昇、異常気象、疫病の流行、動植物の絶滅など様々な問題が生じる

**原子力発電の危険性**  
2011年福島事故では何万人もの人が避難した

## 目的

### 再生可能エネルギーの普及

現在世界では、再エネのような安全でクリーンなエネルギーが求められている！  
しかし日本では再エネの普及は進んでおらず火力発電などの環境負荷の大きいエネルギー源に頼っている現状である。

日本で再エネが普及していない要因は、行政における制度と国民の意識の低さにある。  
一国民全体で意識改革が必要！  
国民に再エネの可能性を示し利用したいと思う人を増やす



**エコモデル計画**  
再エネの具体的な活用方法を社会に提案  
地域全体で省エネに取り組み、電力をすべて再エネで使うエコモデルタウンをジョウマで発信

## 活動

### 1. 東北大学 中田俊彦教授

#### エコモデル計画について

- 太陽光発電はパネル面積に発電量とコストが比例するため、小規模でもコストパフォーマンス良く発電できる
- タービンを回す発電では、発電機の大きさが変わっても部品数が変わらないため、規模が大きい程効率的
- 省エネルギー化も必要
- 消費者として再エネを中心に扱う電力会社を選ぶ(電力自由化)

### 2. エコハウス

#### 住宅の省エネの工夫・再エネの利用

**日本のエコハウス**  
省エネ  
気密性を高めて暖気が外に逃がさない工夫 三重窓、断熱材(山形)  
エアコンを床に設置(松島)  
軒 夏には直射日光を遮り冬には日光を家の中に取り入れるよう設計  
熱交換換気扇  
再エネ利用(山形)  
太陽光発電、太陽熱温水器、ペレットストーブ(バイオマス)

**台湾のグリーンハウスカンパニー**  
省エネ  
通気性をよくして涼しく保つ

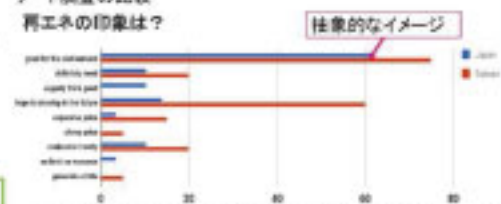
地域に適した再エネと省エネの工夫が大切!

### 3. 台湾 東海大学 大学生・黄教授

- 日本は資源が豊富!
- 台湾では管理が不十分でソーラーパネルの製作過程や廃棄の際に水質汚濁や土壌汚染を招いた
- 一再生可能発電機製作から使用、廃棄までのすべての過程で環境への影響を考慮する必要がある
- エネルギーの燃料から電気への転換

### 4. アンケート調査

日本(仙台駅前 44人)と台湾(東海大学生 30人)で行ったアンケート調査の比較



日本では再エネに対して現実的で具体的なイメージを持っていないことが分かった

### 5. エネシフみやぎく映画と勉強会

**日本の再エネの制度について**  
世界では再エネへのエネルギー変換が進んでいる  
再エネは初期投資に費用はかかっても、自然のエネルギーを有効活用できれば安全で効率が低いエネルギー源

- 日本での3つの課題
- ・持続可能容量の規制  
現在の日本のベースロード電源は火力  
発電量の不安定な再エネで電給を調整するのは難しい
  - ・送電線の空き容量0
  - ・最大な過負荷負担

私たちの提案!  
再エネをベースに発電しその他の安定した発電方法で電給を調節

## エコモデル計画

地域に適した省エネの工夫を取り入れ再エネで地域全体の電力を賄う  
エコハウスとエコタウン  
具体的な再エネの情報や活用方法を社会に広める  
ジョウマ(立休園)としてエコハウスとエコタウンの活用方法を提案し人々の興味や関心を集める

気候、地形、各再エネのポテンシャルを基準に日本列島を4つに区分



## 結論

私たちの将来のために、省エネとともに、安全で持続可能なエネルギー源である再エネを普及させなければならない!  
日本では再エネの制度に課題があり、国民も再エネに対して現実的で具体的なイメージを持っていない。  
具体的な情報を伝え、再エネの可能性を示し、国民全体の意識を変える必要がある。

エコモデル計画を通して、再エネや省エネの情報を伝え、普及を広げていきます!!

# ～国際関係と歴史教育～

SGH 仙台白百合学園高等学校 2005 班

加藤 詩野 原田 麻衣 矢羽々 純鈴 渡邊 さや

## 私たちの探究活動



**Tell** 伝える **Respect** 尊重 **Posterity** 後世まで

皆さんは、授業のなかで教えられた事と、国際交流の場で感じた事との違いに戸惑ったことはありませんか？  
認識の違いによって、誤ったイメージが生まれ、国際関係の悪化に繋がってしまったことも少なくありません。私たちは左で示したようなサイクルを断ち切るため、歴史教育の面から、高校生にできることは何かを考えることにしました。

### 台湾研修前—

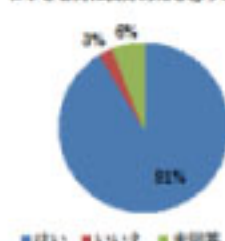
#### ○日台史を知る

- ・有識者の方々による、日台史の講義を受ける
- ・資料等を使って事前学習をする

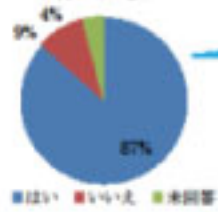
#### <台湾への意識調査>

#### 平成28年度在校生対象

日本と台湾は友好的だと思うか



台湾に好意的なイメージを持っているか



今年の3月に台湾研修に行きました。  
この研修を通し、台湾と日本の歴史を学び、そこから台湾が親日と言われるルーツを探りました。

#### <台湾植民地時代>

- ・日本による支配…日本精神「リッペンチェンシン」広まる
- ・中国による支配…「一つの中国の」原則

台湾と日本の間には問題はない！

果たして、本当にそうだろうか…？

### 台湾研修—

#### ○台湾研修での班別探究

- ・台湾日本人会、二二八纪念馆、台湾総督府、東海大学に訪問し、台湾目録の日台史について学ぶ。

#### ○台湾の高校生と交流

- ・徳明女子高級中学の生徒とともに当校での授業を受け、個人単位での交流をする。



現代において、台湾は日本に主に2つのことを求めている！

- もっと日本人にも詳しく日台史を知ってほしい。
- 日台の今後の関わり方について自分のこととして考えてほしい。

### 今後の展望

#### ○ディスカッションをする

大学生の方々と共に、アジア諸国と日本の他分野における歴史を研究し、理解を深める。

#### ○交流会の場を作る

本校とも関わりのあるカトリック元寺小路教会の方々に協力を仰ぎ、国際交流の計画を進める





# ロヒンギャ難民の教育支援について

## ◆テーマ設定の動機

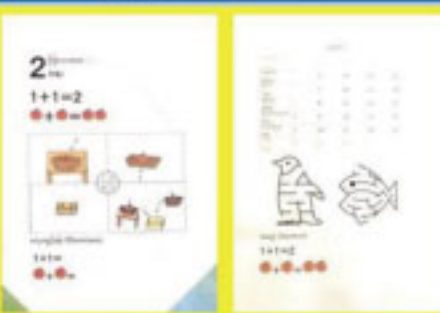
ニュースや新聞で、少数民族であるロヒンギャが難民化し、バングラデシュで厳しい生活を強いられていることや、学校教育を受けることができないことを知った。そこで、ロヒンギャ難民の子供たちが楽しみながら学べる学習教材を開発できないかと考えた。

## ◆ロヒンギャとは

→ミャンマーのラカイン州に住む少数民族のこと



宗教：イスラム教  
言語：ロヒンギャ語  
→ビルマ語へ  
人口：80～100万人  
→仙台市の人口とほぼ同じ



## ◆開発している学習教材「日めくりカレンダー」

対象：ロヒンギャの子供（特に教育を受けられていない子供）

内容：日常で用いる簡単な計算（四則演算、不等式、比など）

利点：・一日一枚めくることで楽しく学べる

・どこでも学習できる

工夫：・数字と絵を対応させ、図を用いて簡単な計算を理解できるようにした

・練習問題や演習ページを設けて学習の定着を図った

・興味を持ってもらえるように折り紙でデザインした

・裏面には子供たちが楽しめるような遊び

（点つなぎ、迷路、手遊び歌など）をつけた

アウン・ティン氏

→1992年に来日し日本に帰化したロヒンギャの男性。バングラデシュにアウン・ティン平和学校を創設。現在日本各地で講演会を開いている。

## ◆今後の活動

在日ビルマロヒンギャ協会のアウン・ティン氏から頂いたアドバイスをもち、また心のケアの要素を充実させて日めくりカレンダーの作成を進め、完成したものをバングラデシュにある難民キャンプへアウン・ティン氏に届けて頂く。その後、様子を把握し改良を加える。

30LS02班 廣瀬ひより 大泉絵莉 梅原瑠貴 大住有加 高橋櫻 村岡優羽

## ◆難民となった原因

肌が黒いことやロヒンギャ語を話していたことが差別を生んだ



2017年ミャンマー側との大きな対立が起き「ジェノサイド（大量虐殺）」と呼ばれるほど差別が拡大し、生活の地を失った



一気に多くの人々が難民化

## ◆ロヒンギャ難民の現状

（バングラデシュ南東部のコックスバザール地域）

- ・米しか配給されていない地域もある
  - ・井戸、下水などの水回りは問題が山積みである
  - ・バングラデシュに逃れた難民のほとんどは想像を絶する辛い経験をしている
- 第三者が教育+心のケアをする必要がある

←「日めくりカレンダー」のサンプル

## ◆今までの活動

2018年6月  
シャプラニール（NGO）より、難民に関する資料を頂き、分析する

2018年7月  
宮城県ユニセフ協会を訪問し、調査。探究を行う

2018年11月  
仙台白百合女子大学牛渡淳教授と教育や学習教材について話し合う

2019年1月  
認定NPO法人IVYyouth訪問  
学習教材として「日めくりカレンダー」の作成を開始する

2019年3月 台湾研修  
開南大学裴教授と対談  
大学生に教育に関するアンケートを実施した

2019年4月  
フォトジャーナリストの新畑克也氏にロヒンギャ難民の現状を伺う

2019年5月  
アウン・ティン氏と難民のために開発した学習教材について話し合う



## ◆参考文献

今知ってほしいロヒンギャ難民についての5つの事実  
<https://www.japanforunhcr.org/jg>



## 2019年度 サーバント・リーダーとの出会い

実施日時	2019年11月22日(金) 13:15~14:45
講演者	IPP 常子(オーストリア政府 公認ガイド・通訳) *過去2回来校され講演されている
演題	『光子・クーデンホーフ・カレルギー伯爵夫人の軌跡』
生徒感想	<p>青山光子さんについてのお話を聴き、異国の地で強く懸命に生きる女性の姿に感動しました。周囲が傍観するだけの中、見ず知らずの人を真っ先に助けようとする優しさと芯の強さを持った女性だと想像することができ、困っている人に率先して寄り添うことの出来る光子さんの様な人になりたいと思いました。日本で家族と幸せに暮らす中、突然外国へ移住することになったのはとても不安だったと思いますが、慣れない生活の中で、英語、ドイツ語、フランス語の3カ国語、更には絵画や音楽の芸術についての知識も修めるなど、彼女が大変努力家で、伯爵夫人として、相応しい女性になろうとしていたことが伺えました。また、夫が亡くなった後、周囲の人々からの対応が悪くなり悪口を言われるようになったときも、語学力を駆使し裁判に勝つなど、夫を亡くし生活への不安を抱えた状態でも強く生き抜こうとする光子さんの姿に感銘を受けました。その後、第一次世界大戦が起こるなど、様々な事があり正に波乱万丈の人生を歩んだ彼女でしたが、今回お話を聴き、一貫して芯の強く気丈な女性だと思いました。今まで外国に渡って人生を送った女性の話を何人も聴きましたが、他の女性と同様、優しさと強さを併せ持つ女性だと感じられ、とても素晴らしい人だと思いました。また、彼女のウィーンでの暮らしや、同時代のハプスブルグ家の話に興味を持ったので、自分でも調べたいと思いました。今回聴いた話を心に留め、これからの生活の中で成長していきたいです。(Ⅱ年 Y.O)</p>  <p>今日は、明治時代にヨーロッパへ渡った日本人女性、青山光子さんについて知ることができました。彼女がヨーロッパへ渡った背景には、あるオーストリア人男性との出会いがありました。この男性が後に光子さんの夫となるハインリヒだったのです。二人の出会いのきっかけは、ハインリヒが東京を訪れていた時に、移動中、馬から落ちてしまった所を光子さんに助けられた、というものでした。当時は、彼が外国人ということもあってか周囲の人々は落馬したハインリヒを助けようとはしなかったそうです。この一連の出来事から、光子さんの『異国の人を恐れずに手を差し伸べる』という姿勢が感じられ、心を打たれました。私は光子さんの生涯を知って、大切なことを3つ学びました。1つ目は最初に述べたような、異国を知り、立ち向かう光子さんの勇気です。彼との2人の子供が産まれた後に、ハインリヒの父が亡くなり、オーストリアに戻らなくてはならなくなったのをきっかけに、光子さんも彼と同行して異国の地へ向かわざるを得なくなったのですが、そのときも、大きな勇気が必要だったことでしょう。私はそのような彼女の姿に、尊敬の念を抱きました。2つ目は、光子さんの『言語面での努力』でした。彼女はオーストリアに渡って、日本語以外の言語で生活を送るために、大変な努力をなさっていました。その姿から、やはり努力無しでは大きな事は成し遂げられない、ということ改めて学びました。そして3つ目は、早すぎる夫の死を乗り越えた光子さんの強さでした。彼女の1番下の子供が3歳になったとき、ハインリヒが亡くなり、その影響で親戚からの対応も変わってしまいましたが、それでも強さを忘れず、子どもの教育に力を注いだことに本当に感動しました。今日の青山光子さんの人生についてのお話を聴いて、一番大切だと思ったことは、『自分の知らない世界へ足を入れる勇気と、どんな困難も乗り越える強さを持つべきである』ということです。光子さんの生き方から学んだことを、これからの自分の人生の糧にしようと思いました。(Ⅱ年 K.K)</p>

今回の講演はオーストリアに短期留学した経験もあった為とても楽しみにしていた。そして講師のIPP 常子先生の衣装がとてもかわいらしく一気に気持ちが盛り上がった。光子・クーデンホーフ・カレルギー伯爵夫人の事は、今回の講演で初めて知った。私と同じような年齢で異国の人に嫁いだ事にまず驚いた。明治時代の結婚であれば国際結婚は難しい事も分かる。光子さんは結婚し2人の子供に恵まれるが、夫に帰国命令が下り夫の母国に戻った。今では世界が小さくなり行きたい国には自由に行くことができ、国際結婚もできるが、当時、夫の母国オーストリアを容易に想像はできなかったと思う。現代の様にカラーの旅行パンフレットなどがあるわけではない。異国の生活を想像するのも難しいと思う。また、何かあればすぐに日本に帰ってこられるという距離でもない。衣食住を始め言葉や習慣、礼儀も異なり、心を許して何でも話せる人ができるかも分からない中、異国に渡るという決断をした光子さんは素晴らしいと思った。また夫の仕事柄、多くの人との交流があり、異文化の中で同自分の居場所を見つけ生きていくのか多くの苦労もあったと思う。異国に渡ってから光子さんはフランス語、英語、ドイツ語を習得したという努力家の一面もみられる。夫であるハインリヒさんも光子さんを大きく支えたに違いない。7人の子宝に恵まれたが、子供たちにはヨーロッパ人としての成長を望む夫の考えで光子さんは日本語を使用できなかった。日本語を使用できないのは、とても辛かったのではないと思う。また光子さんの夫が亡くなった時はどんなに心細かった事かと思う。光子さんの最期は病を患い身体が不自由になった。7人いた子どもの中の一人が最後まで光子さんの介護をした様だが、光子さんは最期に日本に帰りたいかたのではないと思う。母国を離れ、国際的に活躍した日本人女性の一人として、私は光子さんを尊敬する。(Ⅱ年Y.S)

クーデンホーフ=光子さんの名前を聞いたのは初めてだったか、講演の中で何度も世界史や日本史で学んだ人名や出来事が登場し、光子さんがいかに当時の世界情勢と深く関わり、教科書に載らないにしても歴史を支えた重要人物だったかが伺えた。私はまず、光子さんとハインリヒさんの馴初めの話に興味を湧いた。ハインリヒが落馬し、誰も助けてくれなかったところを、唯一手を差し伸べたのが光子さんだった。それから、結婚後異国に渡った光子さんが置かれた厳しい状況の話も印象的だった。私は世界初の日本人のGSLとも言える光子さんの人生から、GSLにとって大事なことを大きく分けて2つ学んだ。1つ目は、光子さんの激動の人生のスタートとなった、馴初めの場面から。怪我をしたハインリヒの横を無言で通り過ぎた人と光子さんの違いは、言い換えれば、何も起こさない人と何かを変革できる人との違いは、先入観に縛られずに弱い立場にある人に寄り添えるかだということだ。当時の日本人の多くは外国人の事を『異質なモノ』と捉えており、同情の気持ちを持つことは程遠い。しかし、光子さんはその壁を乗り越えた。聖書の『善きサマリア人のたとえ』から考えれば、光子さんは困っているハインリヒの『隣人』になったのだ。2つ目は、国際結婚をした光子さんがオーストリアで受けた処遇から。自分は目の前の人のことを所属する集団で決めつけないと思っても、周りの全ての人がそうとは限らない。大切なのは、自分が集団の一部として見られることに屈さず、むしろ多くの人がある集団に対してもつマイナスなイメージを自分が変えようと思う事だ。私は光子さんの生き方から学び、世界の舞台で活躍する人になれるよう努力したいと思った。高校生の今から多様な考え方に触れ、様々な立場の人と話、多くの課題に挑戦し、その経験を将来に活かしたいと思う。(Ⅱ年K.S)



今のように簡単に外国に行けるわけでもなく、外国への理解もまだ薄かったと思いますが、その時代に海外へ渡った光子さんの勇気が素晴らしいと思いました。日本とは文化も言語も違う国で厳しい扱いをされながらも、色々な言語を習得したり、子供の教育をしたりして、今このように光子さんの人生がのちの時代まで伝えられているのが素晴らしいと思いました。私も外国でも活躍できるような女性になりたいと思いました。(Ⅰ年K.O)



◆SGH 事業指定 5 年目に初めて米国スタンフォード大学のオンライン教育プログラム『Stanford e-Japan』へチャレンジする生徒が現れた。以下に、最終発表(校内公聴会)の原稿を掲載する。

### Interaction between Education and Self-affirmation

Self-affirmation means confidence in one's own worth or abilities, and it can be one of the driving forces of human life. Good self-affirmation means a high sense of one's own value, which makes oneself happy, confident, and willing to take on new challenges. Thus, increasing self-affirmation can be a driving force for expanding one's own potential. In recent years, Japanese have often heard that self-affirmation has declined (Kimura). Poor self-affirmation increases an individual's sense of inferiority and dislike of oneself. If self-affirmation is too low, a person may suffer from mental illness such as depression. According to a report published by the World Health Organization (WHO) in 2015 (Approximately, Depression.), the total number of people in the world with depression reached 322 million. Estimates by country show that Japan had about 5.06 million people and the United States had about 17.49 million people, which accounted for around 4 percent of the population in Japan and about 6 percent in the U.S. This paper will examine the relationship between the education we receive from a young age and self-affirmation by contrasting the educational systems of Japan and the U.S.

There is a notable difference between Japanese and U.S. education systems in terms of diversity and flexibility. In Japan schools, after 5-7 hours of classes, time is spent on cleaning, student committees and club activities. Above all, cleaning time is special for Japanese. Where does the Japanese student cleaning culture originate? There are two main histories. The first is the existence of a traditional "road" in Japan. There are traditional and material arts such as tea ceremony and flower arrangement with strong elements of silence, and judo and kendo with strong elements of movement. Cleaning is one of the trainings that nurtures one's heart. The second is Buddhism. The practice of monks has long been said to be first working, second practicing, and third learning. The first is work that is performed using the body. The second is the practice of Buddhism, such as *zazen*, a form of meditation while sitting. The third is studying. In the Buddhist monk's world, cleaning is more important than honing to improve one's mind (Kimi). In contrast to this relatively fixed structure of Japanese learning, the U.S. is characterized by a variety of educational content that meets the needs of students and society, a variety of educational programs, and high quality. An example of a variety of programs is a system in which students study for one semester or one year at a partner school abroad (Molly). International students studying at U.S. universities are also offered the opportunity to participate, and credits earned during that time will be recognized as credits at other U.S. universities.

There is a clear difference between the educational philosophies in Japan and the U.S. In Japan, on the one hand, it is the "hard skills" that are emphasized through a Confucian philosophy of teaching and a high awareness of social norms. In other words, getting a high test scores also means social success. Both countries have different educational systems based on these philosophies. However, in a modern society where "the ability to apply knowledge" is more important than "knowledge," an educational philosophy like Japan's may hinder the diversity and progress of students. In the U.S., students are given the freedom of individual choice; however, that choice also requires individual responsibility. In the U.S., the aim is to develop human resources who can succeed in society through "soft skills" that emphasize learning. Educational institutions are places where students study independently. In addition, it is the duty and contribution of students to express their ideas to discover new knowledge and wisdom.

The decrease in self-affirmation, which has become a problem in Japan in recent years, appears to be partly due to having a different educational system from the U.S. In a survey conducted by the National Institute for Youth Education (NIYE) targeting high school students in Japan, Korea, China, and the U.S. in 2018, only 44.9 percent of the Japanese answered "YES" to the question "I am a worthy person" compared to 83.7 percent in Korea, 80.2 percent in China, and 83.7 percent in the U.S. (Attitude). This data clearly shows that Japanese people have low self-affirmation. Japanese people tend to care about others more than themselves, and they evaluate themselves relative to others, whereas Americans and South Koreans are more likely to be self-centered in their evaluations, said Yoichi Akashi, NIYE's chairman, at a news conference at the Education Ministry (Tanaka).

The impact of educational institutions is related to the educational philosophy of each country. A closer look at the characteristics of language structure seems to be related to differences in educational philosophy. It is mainly the presence or absence of the subject. English does not form as a sentence

without a subject, but most of the time when speaking Japanese, conversation is done without the subject. This suggests that English-speaking countries like the U.S. have a habit of placing greater emphasis on individuals and personalities.

Impacts from habits and culture are related to those at home and from educational institutions. For example, Japanese people have a culture in which qualities of being humble and discreet are viewed as virtues. In addition, Japanese language is rich in honorifics. This is taught by family, school, or society. The U.S. is a country with high self-affirmation. Meanwhile, there is the Sudbury School originating in the U.S. in which there is no fixed curriculum, and students are free to learn. In addition, school management and personnel affairs are determined between students and school staff, and parents are involved in decisions only related to them. It also existed in Japan, too. Sudbury Valley School was founded in 1968 on the outskirts of Boston by Daniel Greenberg, a professor of physics at Columbia University, and local residents. The founders' group had two beliefs: respecting individual freedom for the growth of children and all parties involved are equally involved in the operation. There is no class division, and children ranging in age from 4 to 19 learn in one space; thus various age groups spend much time together and affect each other (Sudbury). The effectiveness of the Sudbury School teaching method is to foster freedom, positivity, communication skills, and coordination. It is an example of a school that fits well with the American educational philosophy and variety of other schools in the U.S.

In conclusion, education systems affect the level of self-affirmation of people in Japan and the U.S. Poor self-affirmation causes various negative effects such as a lack of positive feelings, decreased energy and motivation, and hindered relationships. The poor self-affirmation of the Japanese may be due to the cultural tendency of trying to prioritize local groups or the whole nation over individuals. With the spread of social networking and changes in school education, Japanese as individuals have recently had more opportunities to argue their opinions, but they lack the skills when participating in debate. In the international community, it is important to be able to express one's opinion to others as well as having high self-affirmation. Under an educational method in which students are able to participate in society actively like in the United States, self-affirmation naturally increases, so Japan needs to emulate it. We need to raise our self-affirmation, appreciate our own value, and empower ourselves to pursue a better future while studying and discussing ideas with those around us. (Yuzuki Sakuma 5 February 2020)

【最終発表(校内公聴会)の様子】

日時：2020年2月18日(火) 16:15~18:00





## GSL プロジェクト～50 人一挙公開！～ 本校 HP にアップするのでご期待ください！

SGH 事業指定の教育プログラムの中で、本校の育成すべきリーダー像は GSL＝グローバル・サーバント・リーダーである。GSL プロジェクトはリーダー学の一つで、本校が選定した国内外の GSL について、2 年に渡って歴史的背景を伴った活動や履歴、現状とのつながりや功績について多角的に分析。可能な限り真実を捉え、偏りのない視点で探究し、奉仕の精神とリーダーとしての資質との関係を学ぶ。この活動は、本校の 5 つの探究領域（教育・医療福祉・食・企業・環境）の中で、問題・課題を発見・設定し、探究・発信するまでのすべてに渡って必要となる力の土台を形成。更に 3 年目、探究したことを他者へ広く伝えるための、実践的な取り組み・発信として、GSL パンフレットや教科書、HP 上での公開なども予定。本校の GSL は以下の 50 人。

### 【平成 27 年度】

①シャルトル聖パウロ修道女会『女性外科医 Sr. エヴァ(フィリピン)』②大蔵建設ダム設計技師『八田與一(台湾)』③シャルトル聖パウロ修道女会『シスター・末吉(カメルーン)』④世界のスチール王で台湾の義守大学総長『林義守(台湾)』⑤同世代の人権活動家『マララ・ユスフザイ(パキスタン)』⑥アウシュビッツ収容所の日本人ガイド『中谷 剛(ポーランド)』⑦アンジェラスの鐘の主人公で医師『秋月辰一郎(日本)』⑧現ローマ教皇『フランシスコ(バチカン)』⑨モッポ(3000 人の孤児)の母『田中千鶴子(韓国)』⑩元国連高等難民弁務官『緒方貞子(日本)』

### 【平成 28 年度】

①NPO 法人フー太郎の森代表『新妻香織(福島)』②助産師『菊池陽(東チモール)』③外交官『杉原千畝』④大統領『ホセ・ムヒカ(ウルグアイ)』⑤ベシャワール会会長・医師『中村哲(アフガニスタン)』⑥NPO 法人地球のステージ・医師『桑山紀彦(日本)』⑦スラム街の宣教と教育『市橋隆雄・さら夫妻(ケニア)』⑧大学教授・グラミン銀行創設者『ムハンマド・ユヌス(バングラデッシュ)』⑨蟻の街のマリア『北原怜子(日本)』⑩大同生命・日本女子大学創設『広岡浅子(日本)』

### 【平成 29 年度】

①教育者『マリア・モンテッソーリ(イタリア)』②南アフリカ政治家『ネルソン・マンデラ』③医師『日野原重明』④日本紛争予防センター『瀬谷ルミ子』⑤料理研究家『辰巳芳子』⑥シャルトル聖パウロ修道女会創立者『ルイ・ショーベ神父』⑦日本のプラネタリウム開発者『大平貴之』⑧ビタミン C の研究でノーベル賞『ライナス・ポーリング博士』⑨児童労働を撲滅 NPO 法人 ACE 事務局長『白木朋子』⑩女性初ノーベル平和賞ベルタの足跡を伝える『PP 常子(オーストリア)』

### 【平成 30 年度】

①米国の人種差別撤廃運動の指導者『キング牧師』②国に恩返し Youme school 創立者『ライ・シャラド(ネパール)』③国連軍縮トップを務める『国連事務次長中満泉』④人道支援家『津山直子』⑤NPO 法人ルワンダの教育を考える会『マリールーズ』⑥難民支援『犬養道子』⑦リベリア内戦で立ち上がった女性達『リーマ・ボーイ他』⑧神山復生病院を開きハンセン病患者を保護『レジェ神父』⑨神山復生病院の元患者から婦長へ『井深八栄』⑩セーブザチルドレン創始者『エグランタイン・ジエグ』

### 【令和元年度】

①ノーベル医学生理学賞 『大村智』②PKO 日本人警察官『高田晴行』(カンボジア高田晴行スクール)③国際連合に日本人女性を送り出す『市川房枝』④非難されても国際理解・平和を希求し活動する『明石康』⑤ノーベル平和賞 コンゴ民主共和国医師『ドニ・ムクウェゲ』⑥ノーベル平和賞 イラク少数派ヤジディー『ナディア・ムラド』⑦インド・日本・中国にキリスト教を布教した伝道師『聖フランシスコ・ザビエル』⑧聖母の騎士修道院司祭『聖マキシミリアノ・マリア・コルベ』⑨蟻の街のマリアと共に戦後の日本に貢献した『ゼノ神父』⑩日本を世界に紹介した探検家『イザベラ・バード』

# GIRLS, BE AMBITIOUS!

## ～St. Suzyoshi～

★Mitsuko Suzyoshi, who established a school for children in Cameroon

### ～Profile～

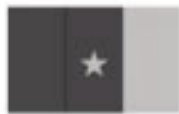


【2014年 MBF】

- 1949 She was born in Nagasaki.
- 1964 Entered Tetsuhiro Shirogane Gakuen High School. After graduation, enrolled in the Sisters of St. Paul of Chartres. Engaged in preschool education. (She had kept a hope to help people.)
- 1991 Emigrated to Cameroon. Started to support Baka family. Through hardship, she established a school. Provide agricultural education of farming to villagers.
- 2014 Returned to Japan to live in the Sekizurachi religious house, Where she remains today.

### ～Cameroon～

- In Central Africa
- A nation with a republican government
- Official language : French and English
- Capital : Yaounde
- Area : 475440 km<sup>2</sup>
- Population : 20,500,000
- Ethnic group : Baka family, Kaka family etc.



Meaning of the national flag  
Green : wooded country  
Red : a unified nation  
Yellow : shining sun, savanna

(About the Baka family)

They are hunting people, and one of 200 Cameroonian tribes. They were looked down on by other tribes. The debrastation of the late 1990s affected them. However, they didn't understand agricultural practices, and the obtaining of business through this. They learned that from St. Suzyoshi.

## ～Overseas support of

### Sisters of St. Paul of Chartres～

"We are same Cameroonians. But, we are always treated as barbarians and couldn't get education. Do you give us a helping hand?"  
30 years ago, a leader of one ethnic group living in the Minder forest appealed to the Bishop of Cameroon. After this speech, the Church began tackling an education, environment and health program.

In 1986, Sisters of St. Paul of Chartres dealt with improvement of living conditions and medical care for them, by bishop's request of Cameroon.  
In 1994, St. Suzyoshi moved to Minder forest. In the beginning when she moved there, there was no electricity or water supply. She was persecuted by the Baka family people living there. The situation didn't improve for three years, but she never gave up. She tried to talk with the adult people and taught them how to farm. She also made a school for children and gave them education. At first, the children disappeared because they couldn't bear the first lesson. Finally she made them get a job. Additionally, she ran six schools and became a manager of a kindergarten. She spent busy with the trust from people.

One day, there was a child who was not able to prepare lunch for school. As such, a child who had eaten breakfast shared their own lunch with the child who had none. St. Suzyoshi saw this, and was concerned, calling out to the child who had eaten breakfast. He said,  
"Girls, the children here are smaller than me. So I'm OK."  
At first, they were infested with a parasitic worm and had stomachs what were pulled out. However, the children have become adults, and have been working in their society.  
Of her future ambitions, 64-year-old St. Suzyoshi has said,  
"There is still more to be done in Cameroon."  
I want to live with joy for the glory of God at the place where I went."

## ～To learn from St. Suzyoshi～

Even now, St. Suzyoshi is supporting for Baka family to help them to achieve social independence. As we learned her efforts, we realized how important the spirit of service is, and the significance of making an effort and continuing work hard for someone else. St. Suzyoshi embodies this, and has become as such because of her remarkable efforts. Never give up, and keep working hard to make a situation better. This is not very easy, and we don't know if we can do exactly the same as her, but we can learn many things from her. She motivates us. Step by step, from tiny things, for someone else, we will do our best with our spirit of service.

# GIRLS, BE AMBITIOUS!

## PROFILE

GNLプロジェクトは30日目の今日は、西本朋子さんとご挨拶します。ACE事務局を兼ねる彼女には中学の子どもの権利を守られ、希望を持って安心して暮らせる社会を実現するための児童労働の撤廃と学校に寄り添っています。

## PROFILE

- 1974年(28歳) 宮城県仙台市出身
- 1992年(18歳) 宮城学院高等学校 卒業
- 1998年(24歳) 明治学院大学経済学部 卒業
- 1997年(23歳) 12月 認定NPO法人ACE 創設開始
- 2002年(28歳) 4月 国際労働機関で就職
- 2009年(35歳) 4月 「スマイル・ガーナプロジェクト」 卒業



### ＜世界で児童労働から子供たちを守る ACE＞

ACEとはインドネシアの民間会社とガーナの女性学生運動の児童労働の撤廃と学校に寄り添うための国際協力 NGO、30日目の日タイシンガー・サマエールさんが「児童労働に反対するグローバルムーブ」を呼びかけ、日本で活動するため、1997年に移住するまで設立された。

目的：「世界中の全ての子どもが権利を奪われ、希望を持って安心して暮らせる社会」の実現。

ガーナにおいて「アフリカ大陸南西部に位置、世界最大の鉄鉱山の採掘場には児童労働者が多く存在している」という現状を背景として活動している。

### 活動内容

- ① 教育可能な子どもを児童労働と教育を辞めた児童労働者保護プロジェクトで子どもが学校に通うようになることで児童労働を解消し、子どもが希望を持って子どもの教育に投資できるよう、親の収入、収入の向上を目指し、
- ② ネット基金  
→、特に児童労働の発生が深刻なインドネシアの「ネット基金」のモデルで子どもの教育を支援するため、1000円で子ども1人の給食費1か月分、3000円で子ども1人の制服2着1か月分、8000円で子どもの職業訓練のためにパソコンを1台買えることである。


### ＜グローバルムーブリーダーとしての西本朋子さん＞

西本さんの活動している認定NPO法人ACEでは児童労働をなくするを目的として、インドネシアの子どもの教育の課題の一つ早い段階から話し、多くのプロジェクトを行っています。

西本さんがこの活動を始めるときは16歳高卒から思い切ったリクエストでした。フェイスブックで書いたら反応が来たことで西本さんが子どもたちにもっと関わりたいと決意。教育を受けることで子どもは夢や希望を抱き、東西の人々をつなげる手段や方法を身に付けられる可能性があると決意しました。この活動がきっかけとなり、西本さんは今もACEの活動を続けています。児童労働である鉱山から引き離され、教育を受けることができていない子ども達がいまもいます。しかし認定NPO法人ACEの活動によって今は子ども達が学校に通い、教育を受けることが出来たりも始まっているので、このプロジェクトであるACEネット基金プロジェクトであるアフリカ・アフリカ・アフリカの購入や、ネット基金やネット基金への参加が目的にたどり着くことも多くあり努力を続けています。

### ＜インドネシア30日目の＞

西本朋子さんの活動している認定NPO法人ACEは一つの子どものために学校に行けるようになっただけでも児童労働を辞めるプロジェクトを行っています。しかし今も児童労働の撤廃や教育、親の収入が増えていくと児童労働の解消が子どもを養う親の経済力が学校に通えない子ども達にも伝えます。そういう子どもたちに対しては必ずしも親を頼り、学校に通うだけが、子どもは希望をかなえる方法に思いついていないという状況を踏まえて、また子ども達自身も「子ども権利プロジェクト」という活動を通して活動しています。大人も関わりますが子どもたちが自分で教育に関わる機会や親の収入を増やすことで、親の収入に頼らず、自立した子ども達も教育の機会によって大人にも価値を伝え、親の収入も心の拠り所を築いてきています。この活動の他に花たちにも行えるプロジェクトがあります。例えば月3000円から継続的に寄付を行うことができる「ワンズデー」プロジェクトです。身近なACEネット基金プロジェクトの購入などがあることから実践できる方法があります。西本さんと共に活動していただく西本さんのように自らプロジェクトに参加することでこのような実践の経験や知識を伝えていくことができるのではないのでしょうか。



◎本校のSGHの活動はHPでもご覧になれます。  
<http://www.sendaishirayuri.net/>



5 YEARS Collection  
*by Sendaishirayuri*



仙台白百合学園高等学校

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山1-2-1

TEL. 022-777-5777 FAX. 022-777-2555